

「地蔵盆」におもう

本山布教教化部出版室長 蔵重 宏昭

私の郷里では8月24日に「地蔵盆」という行事がおこなわれます。

「地蔵盆」とはお地蔵様つまり地蔵菩薩の年一度のご供養日で、地域に点在するお地蔵様全てがお祀りされ、それぞれご近所の方がたがお世話をします。涎かけを新調し、お花やお菓子のお供えがなされ、特徴的なのは、お参りに来る地域の人たち、主に子供たちに対して、お地蔵さま前に休憩所を設け、お接待をすることです。子供を守護する仏さまとして民間信仰の根強いお地蔵様ならではでしょう。

お接待の内容は各所でそれぞれに異なりますが、主に袋詰めしたお菓子を渡したり、中には小豆ご飯にお漬け物などの軽食も振舞われる所もあります。私も小学生の頃、お参りの際にお地蔵様に納めるお賽銭やお米を自転車のカゴに入れ、地域のお地蔵さまを友達とともに駆け巡ったものです。終盤には自転車カゴがお菓子で一杯となり、今振り返っても楽しい思い出です。

実は、私の頃と全く変わらない接待が今現在も地域でなされています。暑さ厳しい中、24日にはあいも変わらず自転車で元気に駆け巡る子供たちの姿が見られます。

あるお接待する年配の方は、子供たちの笑顔を見るのが大好きで長年続けている、とおっしゃいます。一方子供たちは、お接待も楽しみですが、お地蔵様に志納し焼香し手を合わせることもまた楽しんでいるようです。

お地蔵様の真言は「オン・カーカーカ・ビサンマーエイ・ソワカ」ですが、その「カーカーカ」は笑い声を意味します。お地蔵様はありとあらゆる世界でそこに住む者が楽しく「笑う」ことを願われているのです。

残暑がきわめて厳しい日中でも尚、お互いがお互い楽しみ、笑顔で接する人の輪が広がっていることが、お地蔵さまへの何よりのご供養でありましょう。

お互いが気遣い合い、お互いが笑い合う機会を私たち周辺でいかに見出せていけるだろうか、ということもまた改めておもったことです。

顔をしかめるような炎天下でも人びとの笑顔で「仏国土」となる実例が8月24日にあるのですから。（終）